

令和6年度 港区立麻布幼稚園経営計画

—自分が大好き 友達が大好き 笑顔いっぱい 麻布っ子—

1 教育理念(生きる力の基礎を育む幼稚園)

公立幼稚園の使命

- 幼児期にふさわしい生活を通した質の高い教育を実践する幼稚園
- 地域・保護者とともに子供を育てる幼稚園
- 教職員が専門性を高め合い協同(働)する幼稚園

幼稚園は学校教育の始まりです。幼児期の学びは、幼児を取り巻く「人・物・こと」のすべての環境と関わり、直接体験である遊びや生活の中で展開される自発的な活動を通して行われます。一人ひとりの幼児がもつ、生まれながらにして自然に成長していく力と周囲の環境に能動的に働き掛けようとする力を支え、安定した情緒の下で自己を十分に発揮すること、幼児期にふさわしい生活が展開されることを基本に、心身の調和のとれた発達の基礎を培います。

幼稚園教育要領・学習指導要領では、幼児期から高等学校卒業までの学校教育全体において育成すべき資質・能力の3つの柱が示されています。幼稚園では、それぞれの資質・能力を個別に育てるのではなく、遊びや生活を通して一体的に育てていきます。また、地域の公立幼稚園として、子供たちが暮らす地域の環境や人との関わりを深め、家庭と協力して教育を進めてまいります。地域の未就園児親子には、安心して過ごせる場、気軽に相談ができる機会を提供します。

幼児期にふさわしい遊びや生活を積み重ねることで見られるようになる具体的な姿としての「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を小学校教員と共有し、子どもたちの「育ちと学び」をつなげていきます。公立幼稚園の教職員として、常に学び、互いに専門性を高め合い、確かな質の高い教育を推進し、港区の公私立幼児施設の教育の質向上、小学校以降の教育との連携・接続へ貢献するセンター的役割と実践を行います。

幼児教育において育みたい資質・能力(生きる力の基礎を育む)

豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かったり、できるようになったりする
「知識及び技能の基礎」

気付いたことやできるようになったことなどを使い、考えたり、工夫したり、表現したりする
「思考力、判断力、表現力等の基礎」

遊びを通して一体的に育む

心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする
「学びに向かう力、人間性等」

2 麻布幼稚園の教育目標

げんきな子

やさしい子

かんがえる子

教育目標は、麻布幼稚園に通う子供たちを、3年間でどのような子どもに育てていくのかを目標として示したものです。これら3つの目標に向かい、幼児の遊びや生活を通じて一体的に育てていきます。

遊びや生活の中で、様々な「人・物・こと」に出会い、気づき、考え、自分で決めて行動する幼児を育てる教育を進めてまいります。

「健康な心と体」を育むことを基盤に、「自立心」「協同性」「道徳性・規範意識の芽生え」「社会生活との関わり」「思考力の芽生え」「自然との関わり・生命尊重」「数量や図形、標識や文字などへの関心感覚」「言葉による伝え合い」「豊かな感性と表現」の視点から幼児の育ちゆく方向を見据え、港区が推進する真の国際人の育成の基礎となる幼児教育を実践してまいります。

3 幼稚園経営の方針

○全ての子供たちを、教職員全員で育てていきます。

○幼児、保護者、地域との信頼関係を基盤に幼児の学びを支えます。

○安全・安心な環境を保障し、幼児の姿を温かな目で見取り、教員同士のカンファレンスを通してより確かな幼児理解につなげ、発達に必要な環境を整えます。

○幼児の育ちゆく方向を意識し、その時期にふさわしい経験が積み重ねられるようにします。小・中学校、保育園との交流・連携を進め、地域の公立幼稚園として幼児教育と小学校教育の円滑な接続を進めます。

<自分が大好き 友達が大好き 笑顔いっぱいの子ども・保護者・教職員像>

自分が大好き 友達が大好き 笑顔いっぱいの子ども

- ① 自分のことは自分でする子ども
- ② 早寝・早起き・朝ごはん・朝ウンチの習慣を身に付け、自分の健康に関心をもつ子ども
- ③ 全身を使って遊び、安全に対する構えのある子ども
- ④ 好奇心・探究心をもち、「人・物・こと」に積極的に関わり考える子ども
- ⑤ 話す・聞く楽しさ、伝え合う喜びを味わい、言葉に対する感覚が豊かな子ども
- ⑥ 絵本や物語を楽しみ、豊かなイメージをもつ子ども
- ⑦ 自分の力で行動し、やり遂げる充実感を味わえる子ども
- ⑧ 人と関わる楽しさを味わい、相手の思いに気付ける子ども
- ⑨ してよいこと、してはいけないことが分かり、考えて行動する子ども

自分が大好き 友達が好き 笑顔いっぱいの保護者

- ① 子供の思いや成長に気付き、子育てに喜びを感じる保護者
- ② 子供のやる気を見守り、支える保護者
- ③ 学級の子供たちの成長をともに喜び合える保護者
- ④ 幼稚園の教育活動に積極的に関わり地域とつながる保護者

自分が大好き 友達が好き 笑顔いっぱいの教職員

- ① 自らの働き方に改善を図り、心身共に健康で、明るく笑顔で、さわやかな教職員
- ② 相手の状況、思いに気付き、考え、行動できる教職員
- ③ 社会人として、教育公務員として責任感、情熱、使命感をもつ教職員
- ④ 幼稚園全体の子供たちを、教職員全員で育てる意識をもち、協働する教職員
- ⑤ 自ら資質を高め、研究と修養に励み努め、改善・工夫をする教職員
- ⑥ 子供、保護者に真摯に向き合い信頼される、専門性をもつ教職員
- ⑦ 地域と幼稚園を愛し、保護者や地域と連携・協働する教職員

4 経営の重点

- (1) 幼稚園教育要領に示されている「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点に、幼児が育っていく方向を意識し、遊びと生活の充実を保障し、教育目標の達成をめざした教育活動を推進します。
- (2) 教職員一人ひとりが、教育目標や経営方針、働き方改革を自分の課題として捉え、組織の中での役割を意識し、相互に協力し学び、成長し合い、総合力を発揮し、園全体で幼児を育てる教職員集団を形成します。
- (3) 麻布学校運営協議会を推進し、麻布小学校・地域との密接な連携を図り、地域の環境を生かした教育を実践し、地域とともにある幼稚園教育を進めます。
- (4) 地域の公立幼稚園・保育園との交流・連携を進め、同じ地域に暮らす幼児同士の関わりを深めるとともに、地域の幼児教育の質の向上にリーダー的役割を果たし、小・中学校との交流・連携、幼稚園5歳児と小学校1年生の架け橋期の教育の推進します。

【今年度の主な取組】

○ 「健康な心と体を育む」教育の推進

○ 「真の国際人の基礎を育む」教育の推進

「健康な心と体を育む」教育の推進

- ・幼児が信頼する大人に支えられながら、基本的な生活リズムや習慣を身に付け、生活に必要な行動を自分で行うことの必要性や人や物に対する態度を身に付けられるようにしていきます。
- ・体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、相手の立場に立って行動できるようにしていきます。物事を最後まで行う体験を通し、自分の力でやろうとする気持ち、諦めずにやり遂げる達成感につなげ、自信をもって行動できるようにしていきます。
- ・戸外遊びを積極的に取り入れ、幼児が体を動かす楽しさを味わい、多様な動きを経験できるようにし、体の諸機能の発達を促していきます。また、遊びの楽しさを基盤に、自分なりの課題に向かい繰り返し取り組みできるようになる経験を通し、挑戦する意欲や態度を育みます。
- ・危険な場所や遊び方、災害時の行動の仕方、交通安全、生活安全について、具体的な場や状況で知らせ、自ら考え行動する素地を育みます。

「真の国際人の基礎を育む」教育の推進

- ・伝統的な遊びや文化、季節の行事を経験できるようにし、日本の文化に親しみをもたせます。
- ・麻布幼稚園の特性を活かし、多様な人と関わる機会や他国の文化に触れる機会をつくり、興味や関心を高め、違いを受け止め合い相手と協同する素地を育てます。
- ・経験したことや考えたことをなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養います。また、英語をはじめとした様々な国の言葉に触れる機会をつくります。

【具体的な活動】（③:3歳児 ④:4歳児 ⑤:5歳児 ⑥:保護者）

①「手洗い、手指消毒」「早寝、早起き、朝ごはん、朝ウンチ」「おなか元気教室③保」「SNSルール教室 ⑥」

- ・心地よく過ごす環境を整え、幼児が自ら取り組めるようにするとともに、視聴覚教材を活用した指導等を行い、健康に対する興味、関心を高めます。講演会、学級だより等で幼児にとって大切なことを家庭と共有し、幼稚園と家庭の実践を通して習慣となるようにしていきます。

②「戸外遊び」「タグラグビーで遊ぼう⑤」「徒歩遠足④⑤」

- ・園庭や小学校校庭、屋上を活用し、学年に合わせた「戸外遊び」を積極的に継続して取り入れます。「タグラグビーで遊ぼう⑤」をきっかけに様々な動きを経験させ、心と体を十分に働かせ、体を動かす

気持ちよさが感じられるようにします。

体を十分に動かして遊ぶことで、安全に対する構えや身のこなしも身に付けさせていきます。

③「挨拶」「姿勢」「相手の顔を見て話す、返事をする」「自分のことは自分です」

- ・登降園時に親子でする挨拶、場面や場所に応じた挨拶を経験し、モデルとなる大人の姿を見たり、様々な挨拶の仕方を知ったりし、自分から挨拶をする心地よさを味わうようにします。
- ・「背筋を伸ばす」姿勢を知らせ、食事、挨拶等の機会に実践し、習慣となるようにしていきます。
- ・顔を見て会話をすること、返事をするこは、話の内容を理解することや相手を大切にすることにつながります。実際の場面の経験を通して理解させ、身に付くようにしていきます。
- ・「使ったものは自分で片付ける」「自分の荷物は自分で持つ」「相手に嫌な思いをさせてしまったら謝る」等、自分のことは自分でする経験を重ねるようにします。「自分でできた」という自信がもてるように支え、次への意欲につながるようにしていきます。

④「避難訓練を毎月(8月を除く)実施」「具体的な場面での日常的な安全指導」「AED講習(教員)」

「不審者対応訓練(教員)」「アナフィラキシー対応訓練(教員)」

- ・毎月の避難訓練では、地震、火災、不審者、Jアラートを想定し、学級に集まっている場面、園内の様々な場で遊んでいる場面を想定して、「落ち着いて」「考えて」「行動する」ことが身に付くようにしていきます。
- ・園内の安全、園外の安全、遊具やハサミ、テープカッター等の遊具や用具の使い方や扱い方、場面や状況に応じた行動の仕方等について、基本的な行動の仕方を知らせ、実際の場面で経験をさせることを繰り返し、自ら考えて行動する習慣や態度が身に付くようにしていきます。
- ・実際の場面を想定した教員の訓練を行い、緊急時に備えます。

⑤「七夕」「もちつき」「節分」「ひな祭り」などの行事、「お茶会④⑤」「礼法教室⑤」などの体験

- ・伝統的な行事や日本の文化を積極的に教育活動に取り入れていきます。体験を通して、自国文化への理解を深め、大切にすることを育てます。
- ・自国文化への理解をきっかけに、他国の文化への興味・関心をもてるようにしていきます。

⑥「絵本や物語」「お話会③④⑤」「親子論語の会⑤⑥」「外国人保護者等に話をしてもらう会③④⑤」

「幼稚園 NT(ネイティブティーチャー)③④⑤」

- ・絵本やお話を通して日本語のもつ言葉の楽しさや美しさに気付き、言葉に対する感覚を豊かにしていきます。
- ・「親子論語の会⑤」を実施し、保護者とともに、言葉の楽しさや美しさを味わえるようにします。幼児の言葉や思考、心の育ちについて保護者と考える機会としていきます。
- ・身近な存在である外国人等の保護者に、母国の言葉や文化について紹介をってもらう機会を設け、幼児が多様な人や国、文化に触れることを通して、互いを尊重する素地を育んでいきます。

・週3日配置される「幼稚園NT(ネイティブティーチャー)③④⑤」と触れ合う機会を工夫します。日常の関りや英語による絵本の読み聞かせ、歌遊び等を行い、英語や英語を話す身近な人と関われるようにしていきます。

⑦「ビオトープ」「栽培活動(野菜・花)」「木の実の収穫(サクランボ・梅・柿など)⑤」「腐葉土作り⑤」

- ・身近な大人と関わりながら、腐葉土作りや野菜、花を植えて育てる経験をしていきます。
- ・園庭の木の実の収穫や収穫物を使った活動を通して、自分たちの園の環境や自然物を知り、季節の移り変わりや自然の循環が感じ取れるようにします。
- ・学級の友達と育てて収穫した野菜を食すことで、食べ物を大切に美味しくいただく経験をしていきます。
- ・「砂」「水」「虫」「植物」「栽培物」などの身近な物や事象にじっくり、繰り返し関われるようにし、物の性質や仕組みを感じ取ったり、気付いたり、予想したり、工夫したりする姿を支えます。

【教員の指導力向上】

「心も体もたくましい幼児を育てるー運動遊びの環境の工夫を通してー」を研究テーマとし、園教育の質の向上を図ります。また、地域の公私立幼児施設の教育の質の向上、小学校以降の教育との連携・接続へ貢献するセンター的役割と実践を行います。

①園内研究会の実施(毎月1回) 研究保育、研究協議会の実施(年間3回)

- ・園内研究会では、研究テーマに沿って実践や実践記録を基に協議をし、教育の質の向上につなげます。
- ・研究保育、研究協議会では、外部の講師を招聘し指導、助言をいただきます。麻布小学校、地域の公私立幼児施設の教職員への参加を呼び掛け、地域の教育力の向上に努めます。

②六本木アカデミーの実施(年間3回)

- ・六本木中学校、南山小学校・幼稚園、麻布小学校・幼稚園、東町小学校と合同で、研究授業・協議会を実施し、教員間の交流、互いの校種の教育についての理解を深め、連携・接続を推進します。

③保幼小合同研修会の実施

- ・麻布小学校、麻布小学校学区内の公私立幼稚園・保育園において、研究授業と連絡会を行い、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を共有し、小学校入学への円滑な取り組みについて理解を深めます。麻布小学校と協働し、5歳児から1年生の2年間の「架け橋期の教育」を推進します。

④ICTの活用

- ・教員用iPad、プロジェクター付大型電子黒板、園務支援システム等の活用を積極的に行い、教育活動への有効な活用活用する。また、業務の効率化を図る。

【保護者・地域と共に育てる】

幼児の教育は、幼稚園・家庭・地域の中で連続的に行われています。家庭・地域の皆様に、幼稚園の取組をお伝えし幼児の姿や育ちを共有することで、幼児の望ましい発達の循環につなげます。

①園便り、学級便り・ドキュメンテーション、ホームページ、X(旧 Twitter)での発信

・幼稚園の方針や学級の運営、幼児の取組の様子について分かりやすく伝えます。また、Xの発信を周知し、家庭・地域からのフォローを増やし、緊急災害時の活用にも備えます。

②コドモン・緊急配信メールの活用

・幼稚園からの情報を迅速に伝えます。
・ペーパーレスを推進します。

【学校評価】

①今年度の取組について評価の実施と保護者・地域への報告

・幼稚園公開、行事等の実施後に、幼児の取組の様子や成長、保護者の感想などを基に即時に評価を行い、次年度の実施に活かされるようにします。
・学期ごとの評価、遠足や交流といった項目ごとの評価を行い、年度末の学校評価につなげます。
・今年度の取組について、保護者アンケート、学校運営協議会委員アンケート、教職員アンケートを実施し、自己評価を行います。それらを基に学校運営委員会に評価いただき、今年度の学校評価として次年度の教育課程に活かします。学校評価は、保護者会、ホームページ等で保護者・地域の方々に報告をします。